



スポーツ



哲学する本棚

展示書籍を一部ご紹介

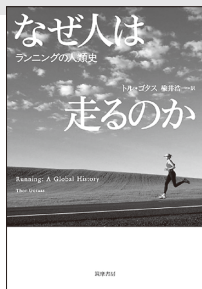
スポーツしながら哲学する

息を切らして、汗水たらして、
どうして人はスポーツに熱中できるのか？
スポーツをしながら哲学してみませんか？

『なぜ人は走るのか ーランニングの人類史』

トル・ゴタス／著 筑摩書房

古来、人類はさまざまな目的のために走ってきた。貴族に仕えたマラソン芸人や賭けレースで稼ぐプロランナーは、今考えると変な仕事。でも、走らなくてもいいのに走る現代の市民ランナーたちは、もっと変じゃないのか？



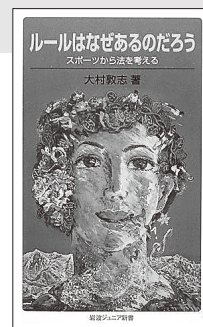
ずるいプレー、フェアなプレー

「あっ、今のプレーはずるい」って思うことがある。
うまく相手をだまして、拍手したいプレーもある。
ルールって何だろう？

『ルールはなぜあるのだろう ースポーツから法を考える』 (岩波ジュニア新書)

大村敦志／著 岩波書店

相撲のルールがなければ、張り手はただの暴力。スポーツにはルールが必要みたいだけれど、ルールって何だろう。法学者の父とサッカー好きの息子がスポーツとルールについて考える本。



強くなるための方法

もっとつよく、うまくなるには…
体を作る、技を磨く、戦略を練る、靴を換える、
ドーピング (!) をする、義足 (?) をかえる…
スポーツで人はなにを鍛えているのだろう？

『じょうずになろう はしること』

武藤芳照／著 加古里子／絵 評論社

目がクラクラするくらい、はしる人と、はしる動物たちの姿ばかりの絵本。
ユーモラスな絵で「はしり」と「うまくはしる方法」を徹底的に解説する。



これってスポーツ？

プロレスはスポーツ？ダンスは？チェスは？
剣道や弓道などの武道はスポーツ？
古今東西のスポーツとスポーツみたいなものを考える。

『パパのしごとはわるものです』

板橋雅弘／著 吉田尚令／絵 岩崎書店

いつも優しいパパの職場をのぞいたら…
パパは悪役レスラーだった!!
悪役レスラーはわざと負けるのがお仕事。
プロレスってスポーツなの？



遊びなのに真剣勝負 !?

負けたって命がとられるわけじゃない。
ただの遊びだと分かっているのに、
どうしてそんなに真剣なの？

『ホモ・ルーデンス』

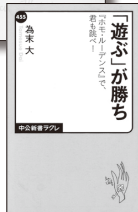
ホイジンガ／著 中央公論新社

『「遊ぶ」が勝ち』

『ホモ・ルーデンス』で、君も跳べ!』

為末大／著 中央公論新社

為末選手 (ハードル / 五輪三大会出場) は直感した。
「これって、スポーツそのものじゃないか」。
アスリートと哲学書『ホモ・ルーデンス (遊ぶヒト)』の出会い。



西田幾多郎が熱中したスポーツ

若き哲学者はスポーツに夢中だった!?
西田幾多郎や当時の人々は、
スポーツをどのように楽しんだのか。

『寸心日記』

西田幾多郎／著 燈影舎

「テニス党を作り一回を催ふす (明治 35 年 7 月 1 日)」四高教授だった 32 才の幾多郎は、仲間とサークルを作るほどテニスに熱中。他にもサッカー (フットボール) やピンポンを楽しみ、学校のベースボールやボートの会に赴くなど、意外にもスポーツ好きでした。



図書室の紹介

哲学館の 1 階の図書室には、哲学に初めて触れる方でも楽しく読める絵本や入門書から、本格的に勉強をしたい方のための本まで、さまざまな哲学の本が 9,000 冊以上並んでいます。なかには西田幾多郎が生きていた時代の古い本もあります。どなたでも閲覧できますので、気軽に入室して探索してみてください。